●参加募集開始される　近畿子どもの水辺（8 月 20 日）　場所:大阪ふれあいの水辺

今年は対面での実行が可能となりました。一昨年は Web で「奈良文化会館」にて実施　昨年は兵庫県三田市「人と自然史博物館」にて実施　来年は滋賀県来々年は京都府で開催予定になっています。今から 17 年前頃にこの取り組みが始められました。大阪に続いて滋賀県が所有する「海の子」や琵琶湖汽船の「バイリンガル」の 2 隻の船を使っての近畿地方の子どもたちに琵琶湖を案内する勉強会が行われました。そして近畿地方を 3 巡目の取組になります。今回は初めて水辺での活動を取り入れた企画になり、午前中は参加者が E ボート体験や水辺での水質検査、地形学習に取組み、午後からは学習発表体験発表を通じて、多くの仲間の前での発表を行って交流を深め合います。皆様の子どもたちの成長を促す機会として、京都からも大いに参加をお願いします。参加者の子どもたちの交通費については一部補助が予定されています。

●竹ペン製作工程説明会実施　7 月 18 日　里山の会事務所

（一回目は午前 10 時　二回目は 11 時の予定です）

約 2 年にわたって工夫を重ねてきました「竹ペン」制作の成果について、心配をおかけしてきましたが、ようやくの事、形にこぎつけるところまで到達出来ました。工程をご覧になってさらに改善すべきところについて、お気づきの点をご教授いただきたくお願いいたします。

●昆虫観察会開催　7 月 8 日（土）9 時 30 分から

夏休み前になりますが、この時期が昆虫の出現の頃だと思いますので開催します。先日のホタルの集いの日にはクワガタが数匹トラップで捕獲することができました。18 日にはカブトムシなどが捕獲出来ているでしょうか。昆虫の世話係の金田さんは長年の経験から、トラップの中身に工夫を重ねてきておられ、近年この地域に適したものを調合されるようになって大きな成果を得られています。また指導をかっていただきました野村様は自然環境に非常に詳しく優れた先生です。きっと皆さまの様々な疑問にお答えされるものと期待しています。これまでにない充実した昆虫観察会になると期待しています。少雨決行で予定をしていますので、ぜひお越しください。里山農園は教育棟として大屋根が作られていますので役立つと思います。天候が少し心配ですが、多くの皆さんのご参加をお待ちしております。4 日までの参加申し込みは 6 家族 15 名となっています。

●夜の生き物調べ　7 月 22 日（土）16：00～21：00　夜間照明をして集まってくるものを調べます。

子どもたちが楽しみにしている夏休みでの取り組みで、夜の生き物調べの機会はあまり実施されておりません。里山の会はこれまで昆虫観察のご指導を長年お世話になってきた前近畿大学教授

の桜谷保之先生に、名古屋からお越しになっていただき、ご指導をいただくことになりました。夜間に集まってくる昆虫観察会を里山農園の教育棟で開催いたします。こうした夜間の取組はスタッフの協力理解が得られなくては実行できませんが、里山の会の皆さんの理解があって開催できる貴重な機会ですので、ぜひご参加ください。準備が出来ましたらヤマトサンショウウオの生育地の夜間ビデオの映写を検討してみます。参加申し込みをお願いします。

●ジャガイモ堀り　7月2日（日）約40kgを収穫

ジャガイモを植え付けたのは3月でした。少し植付けの時期が遅れましたが、収穫期を無事に迎えられました。一般的に農家の方々は今年の実りは厳しいとのことで、里山農園の場合もどちらかと言えば不作の出来ばえだったようです。蒸かしイモや煮っころがしで食していただいた皆さんの声はイマイチということでした。畑への施肥は例年通りでしたが、収穫前に雨がよく降ってイモの味が落ちたということでした。また畑の水はけも不十分なところもあり、来年は畝を少し高くすることや、水はけをよくするなどの改善点が話し合われました。物事を指摘するのは容易ですが、いざ実行するのは大変難しいことです。ご苦労をお願いすることになりますが、よろしくお願いします。

●円山に植樹をしました　7月2日　エノキ1本・どんぐり20本

昨年10月に王仁公園で拾ってきたどんぐりを植木鉢で手塩にかけて育てていただいた金田さんから貴重な苗を。丸坊主になっている丸山に20本余りを、5m間隔以上にして植え付けていただきました。里山農園の周囲に茂っていたものが、2年前の台風によって樹液を出し続けていたエノキやコナラなどの巨木が倒壊し、フジバカマ昆虫たちにとって大きな環境変化が起きてしまいました。それらの影響もあってかオオムラサキの幼虫は12月の冬の観察会では、発見できないという現象が起きてしまいました。オオムラサキの幼虫が発見できなったことは25年間で一度もなかったことです。こうしたことを想定して桜谷先生の提言でどんぐりの木を植樹してきました。随分大きくなりましたが、まだ樹液を出してくれるところまでは成長できていないのです。太くなり高くなる成長スピードは素晴らしいのですが、時間がかかりそうです。今年植樹しても10年ぐらいはかかるのではないかと思います。植樹の必要性はどなたもおっしゃりますが、具体的に準備を始めることにはならず、購入など安易な提案がよくあることです。私たち里山の会は「手作り」で行うことを大切にやってきました。こうした原点を大切にして、自然を大切にしようという活動を進めるべきではないでしょうか。多くのスタッフの皆さんは高齢化や体力の後退というハンディを抱えての活動ですが、金田さんの行動に学んで頑張ってゆきましょう。

●里山農園のササユリが朝日新聞で紹介されました。

日新聞　2023・7・5　第3種郵便物認可

ササユリ5つの笑顔

京田辺の里山 8年ぶり

NPO 放棄地を農園に

京田辺市水取菰谷の里山にある農園にササユリが咲いた。1本の茎に5輪をつけたのは8年ぶりのことだった。

農園のある土地は、戦後の食糧難の時代に山を切りひらいて米をつくっていたところだ。地主の大村幸正さん(82)によると、そのころは牛にカラスキを引かせて耕した。時代はくだり、減反政策のあおりをうけて何十年も放棄地になっていた。

ここを「心が疲れている子どもたちが心をひろげられるところにしよう」と考えた地元のNPO法人やましろ里山の会が、大村さんから土地を借りて2007年に農園にした。

12年、はじめてササユリが1輪をつけた。

人々は、背丈をこえるヤブを取りのぞいたことで陽光が届くようになり、ササユリが目ざめてくれたのだろうと考えた。

13年、3輪が咲いた。

14年、4輪が咲いた。

15年、5輪が咲いた。

16年、6輪が咲くだろうという当てが外れた。ササユリはまた眠りについた。つぼみを虫に食べられた年もあった。

23年6月4日、ちかくの茎が5輪を咲かせた。

人々は「8年まえとおなじになった」「再出発や」とわいた。

里山の会常務理事の山村武正さん(83)のよろこびは、2年前に脳梗塞を患ってリハビリ中だから格別だ。「つぼみはな、あした咲くぞとものすごくきばりよるんや。それを見たらものすごい生命力をもらえるんや。リハビリのがんばりにササユリがこたえてくれたんやな」

農作物を世話している森島保さん(81)の案内で記者も6月16日、ササユリを見にいった。イノシシが根こそぎ食べてしまっていた。これも自然の営みなのだろう。森島さんは「咲いてくれるのか、くれんのか」と来年をたのしみにしている。

動植物でにぎわう里山農園づくりは今もつづいている。京田辺市役所から車で十数分のところにあって、「オオムラサキはいるわ、クワガタはとれるわ、オオタカが空を飛んでいるわ、ウグイスはぴいぴい鳴いているし、ウサギはぴょんぴょんはねているしと、とんでもないところになっている」(山村さん)。

ここである折々の催しへの参加者と会員登録を募っている。問い合わせはNPO法人やましろ里山の会(0774・64・4183)へ。

(下地毅)

ことし咲いた5輪のササユリ＝金田徹さん撮影

今年は5輪

12年に1輪

13年に3輪

14年に4輪

15年に5輪

＝いずれもNPO法人やましろ里山の会提供

左から大村幸正さん、森島保さん、山村武正さん。農園でとれたタマネギとともに＝京田辺市水取菰谷